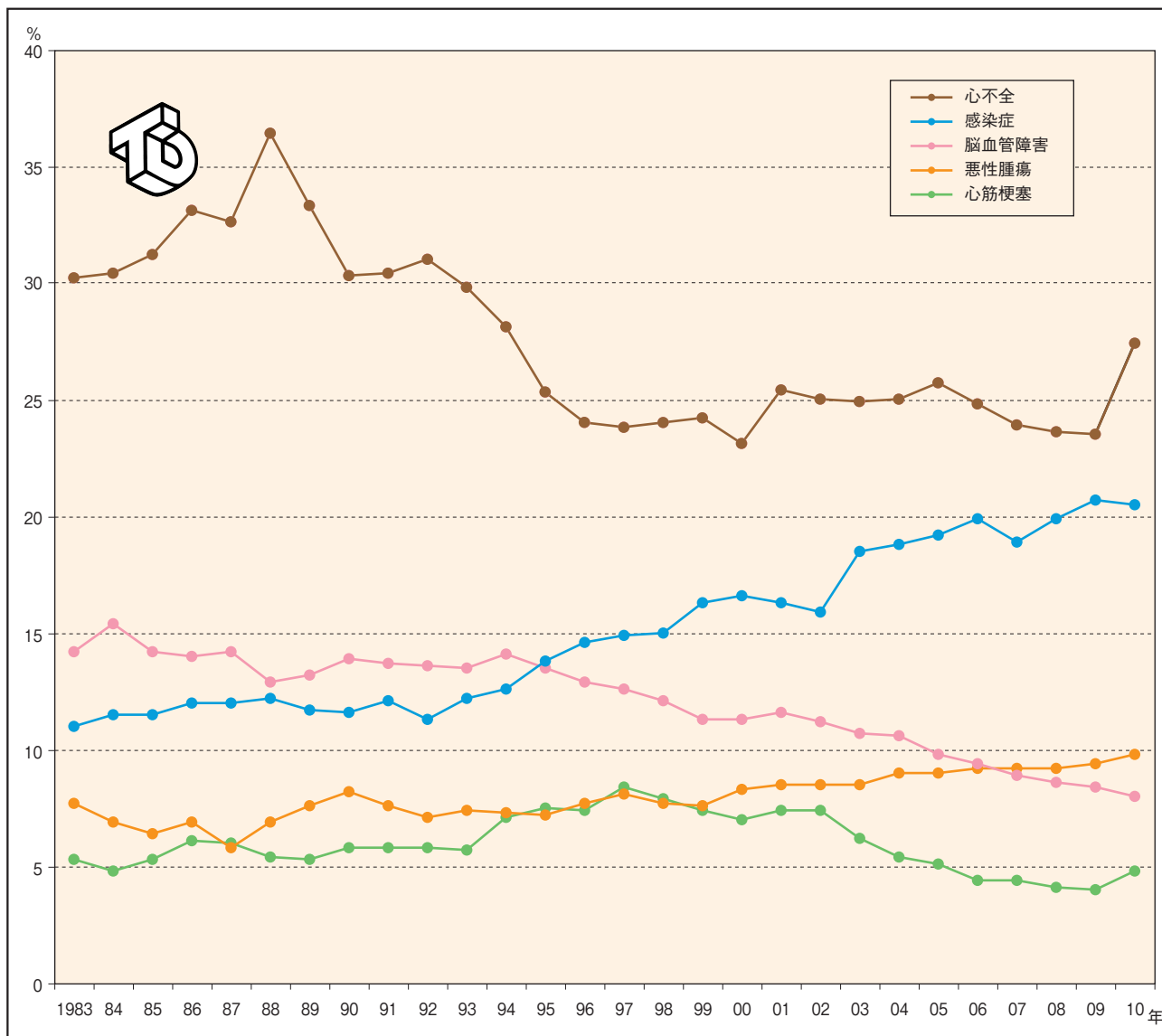


5) 死亡原因

(4) 年別死亡原因の推移 (図表19)



患者調査による集計

解説

死亡原因の第一位は心不全であるが、2009年の割合と比較すると3.9%増加したが、死因コードを変えた事が影響している可能性もある。一方、感染症による死亡は1993年頃から上昇傾向となっている。脳血管障害は1994年以降漸減傾向が続いていて、2010年は8.0%であり、2009年より0.4%減少した。心筋梗塞死亡は1997年の8.4%をピークに最近では漸減傾向であったが、2010年は4.8%で2009年と比べ0.8%増加した。悪性腫瘍死亡は漸増し、2010年では9.8%であり、2009年と比較して0.4%の増加であった。心不全、脳血管障害、心筋梗塞を心血管障害による死亡と考えると、2010年は40.3%に相当し、2009年の36%と比較して4.3%の増加である。